

日本ミシェル・アンリ哲学会

第十六回研究大会
プログラム

今大会のシンポジウムは、アンリを中心とする現代フランス哲学とフロイトとの関係をテーマとして取り上げます。フッサールやハイデガーらと異なり、フランスの現象学者は積極的にフロイトの精神分析と対峙してきました。サルトルとメルロ＝ポンティに続き、1960年代にはリクールとデリダがフロイトを論じ、その後、1985年にはアンリが『精神分析の系譜』においてフロイト論を展開しました。彼らのフロイト受容の仕方は一様ではなく、フロイト解釈は、彼らの立場の違いを映し出す鏡といえるかもしれません。今大会では、佐藤愛氏、吉松覚氏、越門勝彦氏をお招きし、現代フランス哲学における精神分析の意義を、リクール、デリダ、アンリそれぞれのフロイト論の比較を通して検討する予定です。

午前の部では、長坂会員によるアンリのピラン解釈からマルクス論を読み直す試み、平光会員によるアンリとベルクソンの時間論についての研究、そして、米虫会員によるアンリとバディウにおける主体概念についての論考という三つの研究発表が予定されています。

また5月31日には、成城大学にて、エマニュエル・カタン氏（ソルボンヌ大学形而上学講座）による講演が行われます。研究大会および講演会へのご参加を心よりお待ちしております。

期日：2024年6月1日（土）
成城大学3号館311教室

【研究発表】

9:20~10:05

長坂祥悟（北海道大学）

「系譜学的カテゴリー論の試み——『マルクス』におけるメヌ・ド・ピランとアンリ」

10:10~10:55

平光哲朗（神戸学院大学）

「ベルクソンからアンリへ——持続は脱自の運動か、または生ける現在について」

11:10~11:45

米虫正巳（関西学院大学）

「内在としての二つの主体——アンリとバディウ」

11:45~13:00

昼食

【シンポジウム】

13:00~16:30

テーマ：「現代フランス哲学と精神分析との関係」

佐藤愛（日本学術振興会 RPD / 青山学院大学）

「『精神分析の系譜』再読——失われた始源から喪失による生へ」

吉松覚（帝京大学）

「解体か、脱構築か、失われた始源か——デリダと『精神分析の系譜』の交差するところ」

越門勝彦（明治大学）

「精神分析における表象と解釈の役割——アンリはリクールのフロイト論をどう読んだのか」

16:40~17:20 総会

17:30~19:30 懇親会（於成城大学内）

エマニュエル・カタン氏講演会

Emmanuel Cattin, « Phénoménologie de l'Esprit selon sainte Thérèse d'Avila »

（エマニュエル・カタン「アビラの聖テレジアにおける〈精神の現象学〉」）

会場：成城大学7号館722教室

日時：2024年5月31日（金）17:00-18:30（参加自由・無料）

成城大学文芸学部、同志社大学現象学研究会共催

日本ミシェル・アンリ哲学会事務局

〒085-0061 北海道釧路市芦野4-1-1 釧路公立大学 本間研究室内

Tel: 0154-37-3211 E-mail: sj.michel.henry@gmail.com

ホームページ: <http://www7b.biglobe.ne.jp/~michelhenry/>